

玉垂

たまだれ
No.45



宮川沿いのもみじ並木の散策路（平成27年12月2日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

師走雑感

今年の御神域のもみじの紅葉は夏の長雨と晩秋の暖かな季候の影響を受け、師走に入り色づきが急激に進みました。毎年、十一月中旬から当社の紅葉を楽しみにご参拝の皆様が全国各地より訪れますが、例年とは違う自然の力を目の当たりにし、今年ならではの絶景ポイントを探し求める姿が多く見受けられました。神々が宿る自然が織りなす秋の色彩は、「まさに神のみぞ知る」でありますが、毎年、シーズンが近づくにつれ美しい紅葉を期待し願わずにはいられません。

さて、古来日本人は四季の変化を繊細に感じ取り、それに寄り添う生活の中で文化や伝統を育んできました。そして、一年の内に幾重もの節目を見いだし、様々な儀礼や祭事まつりごとを執り行ってきました。たとえば、新春の寒さの中で行う年頭の祭事は変わることなく続いております。当社におきましても、元旦からは歳旦祭、元始祭、追儺祭、田遊祭、手鉞始祭、どんど焼祭、御弓始祭、そして節分祭と数々の祭りが行われます。これらは、一年を平穩無事に過ごせるよう、神々に「感謝」と「祈り」を捧げるお祭りです。私たちの祖先はこうした神事や祭礼を毎年同じ季節に繰り返し行う中で、自然と共存する生き方を学び、様々な「和合」の文化を育んできたのでしよう。

ところで、来年五月には日本が議長国となり伊勢志摩サミットの開催が決定しております。サミットの基本理念は「調和」や「協調」の精神とされています。伊勢の地は、日本文化の原点である「感謝」と「祈り」の聖地です。各国の首脳が神宮の清々しさに触れ、世界の平和と繁栄のため、有意義な会議となるよう願っております。師走と聞くと何かと慌ただしくなっております。当社の迎春準備は日々粛々と進めており、大晦日には師走の大祓式を斎行いたします。氏子崇敬者の皆様方には、呉々もご自愛の上、良い丙申年をお迎え下さいますようお願い申し上げます。

新嘗祭の齋行・奉納農産物品評会の表彰

境内の紅葉が見頃を迎え、大勢の参拝者で賑わう十一月二十三日、新嘗祭が齋行されました。

新穀を神様に供え、今年一年の豊穰と諸産業の発展に感謝する「新嘗祭」は、穀物の生育を祈る「祈年祭」と相対する関係にあり、全国の神社で執り行われています。当社でも氏子の皆様にご奉納いただいた農産物をご神前にお供えいたしました。

また、当社振興会の主催により今回で五十九回目を迎える奉納農産物品評会が開催されました。氏子の皆様方より出品をいただきました二五二点もの奉納農産物は、新嘗祭齋行後の即売会にて大盛況のうちに完売となりました。ここに品評会にて受賞された方々をご報告させていただきますとともに、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

〈協力賞〉

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 円田上部農会
- 第三位 橘 部農会
- 第四位 上川原部農会
- 第五位 中川上部農会

〈小國神社賞〉

- 米 橘 富幸
- 大根 宮代東 白幡 貞子
- 白菜 牛 倉 村松伊佐雄
- メロン 今村 芳信
- 茶 中川上 本多 利吉
- 〈遠州中央農業協同組合代表理事長賞〉
- 米 中川上 石黒 朔郎
- えび芋 宮代東 松尾 貞子
- レタス 大久保 井口 義則
- 治郎柿 谷 中 高木 一彦
- 椎茸 橘 中



大盛況の奉納農産物即売会 (11月23日)



奉納農産物品評会「白菜の部」 (11月23日)

〈小國神社振興会賞〉

- 米 宮代西 鈴木 功
- 生麦 米 倉 山本 文明
- ネギ 片 瀬 毛利 正雄
- みかん 上川原 鈴木 英夫
- 茶 円田上 鈴木 伸明
- 大豆 円田上 鈴木 利枝
- 馬鈴薯 宮代東 松尾 貞子
- キャベツ 宮代東 松尾 貞子
- なめこ 橘 中村 隆好
- かりん 草ヶ谷 高柳 節義
- 〈特別賞〉 宮代東 松尾 貞子 (敬称略)
- 十一点出品

篤志奉納者へ感謝状の贈呈

十一月二十三日の新嘗祭齋行後、拝殿におきまして篤志奉納者の皆様に感謝状と記念品の贈呈をいたしました。

ご奉納いただきました皆様のご芳名を掲載し、改めて厚く御礼申し上げます。

- 株式会社久米吉
- 代表取締役 倉島 正三
- 浜名梱包輸送株式会社
- 代表取締役 鈴木 猛
- 松井 冬子
- 鈴木 幸治
- 有限会社一十園
- 代表取締役 小林 健
- 有限会社政和電気
- 会長 中根 省二
- 大沼建設株式会社
- 代表取締役 大沼 賢吾
- 中野 日和
- 絵画一幅「幻桜」
- 絵画一幅「大己貴命から愛を受ける因幡の白兔」
- マークエステル・スキャルシヤフイキ
- 米作品 「遠江国一宮小國神社」
- 胡麻作品「大國主大神」
- 神饌米 牧野 良香
- 神饌米 鈴木 孝
- 神饌米 村松伊佐雄
- 神饌米 榊原 明美
- 神饌米 栗田 得千

(順不同・敬称略)



中野日和氏奉納の絵画『幻桜』

宮川石橋移設工事が完成

この度、大沼建設様・一十園様のご芳志により、宮川に架かる石橋の移設工事が完成致しました。

この石橋は昨年の台風十八号による被害を受け、架橋が崩落。周辺の景観が大きく損なわれた状態でした。

今回の工事により安全な散策が叶うこととなり、上流に架けられた石橋は新たな宮川散策スポットとして末永く親しまれることと存じます。

両社のご奉納に深く感謝するとともに、大神様のご加護をいただかれ益々のご隆昌とお栄えをお祈りいたします。



宮川堰堤付近で行われた石橋移設工事(10月18日)



古式舞楽五番「太平楽」(6月13日)

古式舞楽保存会「国分寺まわりin遠江」に出演

六月十三日(土)磐田市の遠江国分寺跡公園で「国分寺まつりin遠江」が開催され、当社の古式舞楽保存会と天宮神社十二段舞楽保存会が出演いたしました。

両社の舞楽は、遠江国の歴史に欠かすことの出来ない伝統神事であると高い評価を得ています。

本大会では、天宮神社が「延舞」「新鞆鞆」「安摩」を、次いで当社が「太平楽」「獅子」を披露いたしました。炎天下ではありましたが、大勢の方が熱心に見学され、現代に再現された悠久の歴史絵巻に思いをいたしておりました。



受章奉告参拝された大場喜久司様(左)(11月11日)

手新始祭棟梁 大場喜久司様「現代の名工・卓越技能章」の受章

当社の手新始祭奉仕者である宮大工の大場喜久司様が厚生労働省より、「卓越した技能者・現代の名工」として表彰の誉れに浴されました。

大場様は当社の特殊神事である手新始祭の「棟梁」としてご奉仕や古式十二段舞楽の「行頭」としても神事祭祀文化の伝承にお力添えを賜っております。

また、当社の神饌所を始め、舞殿、末社の一宮等合殿社などの造営を手掛けられました。近年では、社寺建築の技術と心を次世代に繋げることに尽力されています。

この度の受章を心よりお祝い申し上げますとともに、大神様のご神慮をいただき、ご自愛專一に益々のご活躍をお祈り申し上げます。



宮川沿いを散歩する和楽器バンドの皆様(8月23日)

ロックバンド「和楽器バンド」メンバーのご参拝

和楽器バンドは、尺八、箏、三味線、和太鼓の和楽器にギターなどの洋楽器を加え、詩吟の師範が歌を担当する編成が話題となり、ロックに伝統的な「和」の要素を取り入れた新感覚のバンドとして活躍されています。本年九月にはアルバムも発売され、オリコンチャートランキング一位を獲得されました。

正式参拝の折に皆様は御神酒をご前に奉献され、一年の無事とバンドの更なる成長を祈願されました。

和楽器バンドの皆様におかれましては小國大神様のご加護をいただき、益々のご活躍をお祈りいたします。



様々なデザインのかみだなの展示(9月14日)

人と暮らしとかみのたな展の開催

九月三日より十五日までの二週間、静岡市内ギャラリー濱村において、神棚の里(南静岡木工)が「人と暮らしとかみのたな展」を開催いたしました。日常の「感謝」の気持ちを届ける祈りの場「かみだな」を設けることの大切さと「家庭のおまつりのころ」を広く伝える展示会となりました。

また、従来型の神棚や宮形の他にも、近年主流となりつつある現代の生活スタイルや建築様式にも馴染む『かみだな』を多数揃え、多くの人々が関心を示していました。

年明け一月には第二回の開催をいたします。詳細は社頭及び当社ウェブサイトでもご案内いたしますので、是非ご来場下さい。



御神札まつり箱、神杉の木霊の完成

この度、当社のご神域で育まれた「神杉」を使用した新しい形の神棚、「御神札まつり箱」「神杉の木霊」を限定授与いたします。

近年、住環境の変化でマンション住まいの方やアパートでの一人暮らしの方、洋室中心の住宅にお住まいになる

壁に掛けておまつりができます



家庭のおまつりで育まれる豊かな心

方が増えてまいりました。そのような中、「お神札をおまつりしたいけれども、従来の宮形や神棚だと住環境に合わず、粗末にあつかいたくないので困っている」との声が多く聞かれます。

御神札まつり箱「神杉の木霊」はお神札を汚れやほこりから守り丁寧におまつりすることができます。また、和室・洋室問わず様々な住環境に馴染むコンパクトで落ち着いたデザインと壁に大きな穴を開けずに壁掛け出来る事が特徴です。御神札まつり箱には神宮大麻（小）や小國神社のお神札などの一般的な紙製のお神札を三体納めることができます。

なお、当社公式WEBサイトでご案内と実物を参拝者休憩所に展示しています。「神杉の木霊」は授与所に一字五、〇〇〇円也でおわけしています。

第四回神社検定の開催「受検者の声」

白澤 慶さん（団体職員・二十代）

会場が小國神社ということで、気軽に受検してみました。三級は神社にまつわる基本的な知識を問う内容でした。公式テキストは、コラムのような感覚で読み易く、歴史や文化だけではなく、日本人として知っておくべきことばかり。小國神社で撮影された写真も多く掲載されていて、楽しく学ぶ事ができました。

秋葉美緒さん（画家・二十代）

二度目の一級挑戦です。公式テキストで勉強しています。今までの私には馴染みの無い語句も多く、全体的にしっかりと理解するにはまだまだ時間がかかりそうです。検定を機に、より深く学んでいければと思います。



秋場美緒さん



白澤 慶さん

小國神社大骨董蚤の市の開催

十月三日・四日に当社第五駐車場において大骨董蚤の市が開催されました。多数の店舗が出店し、大変な賑わいとなりました。

会場では、瀬戸物や古着物、様々な古道具、今となつては懐かしい玩具など、多くの骨董品が出品されました。訪れた方は掘り出し物がないか見て回り、店主との会話を楽しんでいました。

この大骨董蚤の市は一月を除く毎月の開催を予定しております。各月の第一日曜日と前日土曜日に開催いたします。

また、当社ウェブサイト内でも随時開催情報を掲載いたしますのでご確認ください。



賑わいの蚤の市会場（11月1日）

特別寄稿

皇學館大学文学部教授 松本 丘

大国さまのお姿と打出の小槌



大国さま、すなわち大国主命の

お姿は、頭巾をかぶり、左肩には袋を背負い、右手には小槌を持ち、米俵の上に座っているというのが一般的でしょう。しかし、『古事記』などの神話の記事にこうしたお姿が描かれているわけではなく、色々な変遷を経て今に至っているのです。

そのお姿にもっとも関係の深いのは「大黒天」です。大黒天は摩訶迦羅天ともいい、もともとはインド土着の神でしたが、やがて仏教に取り入れられ、大日如来が、人を襲う荼吉尼天を降伏させるため姿を変えたものとされました。その姿は、一面または三面で、頭髪逆立った恐ろしい形相、体は青黒く、腕も六本または八本あり、剣を持った戦闘神として描かれていました。

また一方で、仏教が中国に伝わ

ると、大黒天は土地を守る神、また食物守護の神とされ、食堂や厨房に祭られるようになりました。その姿は戦闘神ではなく、顔は一面、腕も二本で、黒色の福神とされました。

こうした二系統の大黒天の姿が日本に伝わって来るのですが、やがては戦闘神の性格は薄れて、福神として信仰されるが多くなつていきました。その福神としての大黒天が、我が国の大国主命と習合してゆくわけですが、その始まりは、天台宗を伝えた最澄が、比叡山を開いた時に、山の神である大己貴神（大国主命の別名）が大黒天として現れたこととされています。

そして、大国主命の「大国（だいこく）」、またその別名である「大己貴（だいこき）」の音が「大黒」と似ていることも、両者の同一化を促しました。そのことが大黒天の図像にも変化をもたらす、室町時代の頃から、烏帽子をかぶり、狩衣を着て、袋と小槌を持つという、お馴染みの姿に近い

ものが現れます。特に袋は、『古事記』で大国主命が兄神たちの従者として袋を背負わされたという話を連想させ、大黒天の姿がそのまま大国主命の姿として定着していきました。この袋には財宝が入っているといわれ、福の神としての大国さまの神徳をよく表すものです。

さて、大国さまが持っている小槌、これはいわゆる「打出の小槌」とありとされています。打出の小槌は、隠れ笠・隠れ蓑とともに鬼の持ち物とされ、これを振ると様々なものが出てくるという不思議な槌です。古くは『平家物語』に登場し、中世から多くの物語に見えるようになりますが、室町時代に書かれた『御伽草子』にある「一寸法師」の、一寸法師が鬼を退治して、鬼が持っていた小槌の力によって体が大きくなったというお話は周知の通りです。

ではなぜ大国さまがこの小槌を持っているのでしょうか。これは大黒天が持っていた宝棒が日本風に変化したものです。大国さまは色々な別名をお持ちですが、その一つに「大地主神」があります。これは土地をつかさどる神の意味ですが、このように大国さまには

大地の神としてのイメージがあり、

また「土」と「槌」とが同じく「つち」と読むことから、その持ち物が棒から槌へと変化したものと考えられます。そして、打出の小槌の説話が広まるに従って、大国さまの槌も打出の小槌であると考えられるようになったでしょう。

江戸時代には「四民ともに面々それぞれの家業職分の道具をしばらくも手を放つ事なかれとの教なり」（西川如見『町人袋』）という小槌の道徳的な解釈もされるようになり、特に商人の間で大国信仰が盛んになりました。神話で日本の国土を開発され、様々な恵みを民にもたらしたと伝えられている大国さま。その大いなるご神徳の象徴として、打出の小槌はもっともふさわしい持ち物といえるでしょう。

筆者略歴 松本 丘

昭和43年 東京生まれ。
平成8年 國學院大學大学院博士課程後期満期退学

平成19年 皇學館大学文学部准教授
同年 皇學館大学教授
主著書 『垂加神道の人々と日本書紀』

第十三回 「写真コンテスト」 のご報告

十三回目を迎えた小國神社の写真コンテストには九四名の皆様から三六九枚のご応募がありました。去る八月十八日に実行委員会による最終審査会が実施され、最優秀賞をはじめ各賞が決定いたしました。表彰式は九月六日に小國神社拝殿において開催され、作品展は同日より九月二十三日までの期間、当社研修室にて入賞作品を含めた五十枚を展示いたしました。

なお、開催にあたりご協力いただきました各後援・協賛の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。



金子育史「春のまつり」



土戸幸男「十二段舞楽二の舞」



杉本昌弘「美しき森の住民」



名波 豊「幸せの色彩」

最優秀賞	金子育史(浜松市)
優秀賞	土戸幸男(森町)
優秀賞	杉本昌弘(掛川市)
特別賞	名波豊(掛川市)
入選	宮村博明(磐田市)
入選	光飛悦子(磐田市)
入選	相澤清(島田市)
入選	木下安雄(浜松市)
入選	鈴木ミツヒロ(磐田市)
入選	野末昌稔(浜松市)
入選	木太辰美(浜松市)
入選	松浦秀明(浜松市)
入選	渥美琴行(磐田市)
入選	袴田保(袋井市)
入選	加藤義昭(浜松市)
入選	飯田拓司(浜松市)
入選	鶴岡正司(浜松市)
入選	浅井秀夫(浜松市)
入選	松井久江(浜松市)



宮村博明「春風の香り」

命 名

平成二十七年五月一日()
平成二十七年十一月三十日

山下蔵之助	磐田市	江元 貴彦	森 町
二俣 龍司	菊川市	笹川 琴未	磐田市
太田 芽依	掛川市	河合 恵那	岐阜市
森越 琴子	森 町	山下 諒	森 町
梶原 衣央	掛川市	進士 珠奈	焼津市
土屋真那登	鈴鹿市	鈴木 穂希	森 町
伊藤 泰雅	浜松市	岡田 弓雅	浜松市
松谷 來美	宝塚市	竹内 維埜	袋井市
太田 瑛南	袋井市	松尾 咲良	森 町
森田 陸渡	森 町	佐藤 旬	掛川市
難波 和花	袋井市	岡本 空	菊川市
小倉 京	森 町	杉山湖太郎	浜松市
山崎 萌花	袋井市	寺井美緒奈	袋井市
戸塚 颯佑	掛川市	松村 征也	袋井市
青田 湊希	磐田市	辻村 美琴	森 町
富田望紗季	浜松市	堀井 楓	森 町
鈴木 希歩	掛川市	望月美日子	焼津市
		宮崎 優利	袋井市
		松下 恵大	牧ノ原市
		杉本日真里	島田市
		鈴木 統真	磐田市
		白岩 穂高	菊川市
		高橋 奏汰	掛川市
		青山 帆穂	袋井市
		戸塚 理希	森 町

○当社では、お子様の命名を申し受けております。



三世代家族のご奉仕による渡始式（10月24日）

「禊橋」竣工奉告祭並び渡始式の斎行
 この度、当社への参拝路としても多くの皆様が行く「禊橋」の竣工奉告祭並び渡始式が厳粛に執り行われました。渡始式では、清水力夫様のご奉仕による縄切り神事を行い、引続き氏子内の三世代家族のご代表として永田佐吉様、松尾 要様のご両家が渡り初めを行いました。
 被衣を被った渡女を先頭に三世代家族が新しい橋を渡ること、老婆の長寿と子孫繁栄にあやかり、橋を風水害から護り、「禊橋」が世代を超えて受け継がれるようにとの願いが込められました。
 また、明神通り振興会による開通記念祝賀会も盛大に開催され、氏子の皆様が橋の竣工を祝いました。



講師 ジャーナリスト 有本香様（10月18日）

遠州とこわか塾 第六期の開催
 「遠州とこわか塾」第六期(平成二十六年九月一日〜平成二十七年八月三十一日)が九月一日より開塾し、十月十八日(日)に第一回目を開催いたしました。講師といたしましてジャーナリストの有本香先生をお招きし、「中国情勢と日本の安全保障」についてのご講話を賜りました。
 近年、尖閣諸島や南沙諸島では隣国である中国が領海侵犯などを繰り返して、緊張状態が続く中、自国の防衛と国際社会の平和貢献のために現行憲法の改正を求める声が高まっています。
 上辺だけの情報に扇動され、改憲＝戦争という飛躍しすぎた論法などにもまさされず、国の将来を真摯に見つめた活発な国民議論がなされることを期待いたします。



だいきく様の縁起物 宝槌

開運招福・福德円満縁結び
 だいきく様の縁起物
 「打出の木小槌」「宝槌」のご紹介
 ご祭神大己貴命(だいきく様)のご神徳の象徴とされる小槌は人々の様々な願いを叶えたと伝えられています。ふっくらとした柔らかな形の小槌は天然のけやきを使用し木目も色合いもすべて異なる特別な縁起物です。
 近年では、「打出の木小槌」や「宝槌」を神棚にお祀りする他にも、仕事机・玄関・または身につけたりと粗末にならないように自身の身近なところでお持ちになる方が増えているようです。
 また、本年八月にはTBSテレビ「マツコの知らない世界」にて紹介され、密かなブームになりました。



森町立宮園小学校
小学2年生体験学習（6月18日）



太田辰美氏撮影
野鳥写真「カワセミ」



神社総代会周智支部森町分会
祭式研修会の開催（9月24日）

まつり歳時記

十二月〜三月

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十二日 鎮火祭 (午後三時)
- 十四日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 二十三日 天長祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 昭和天皇祭遙拝式 (午前八時)
- 七日 神明宮参拝 (午前九時)
- 八日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十一日 手鉾始祭 (午前八時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前八時)
- 十七日 どんと焼祭 (午前八時半)
- 十七日 御弓始祭 (午前九時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 二月三日 厄除大祭 (午前九時)

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元祭 (午前十時半)
- 十二日 初甲子祭 (午前九時)
- 十五日 養社饗子社白社例祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
 - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
 - 十七日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
 - 十七日 鉾執社例祭 (午後一時半)
 - 十八日 月次祭 (午前九時)
 - 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前八時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月十六日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 十七日 前日祭 (午前十時)
 - 十七日 舞楽奉奏 (午前十一時)
 - 十七日 神幸祭 (午後二時)
 - 十八日 例祭 (午前十時)

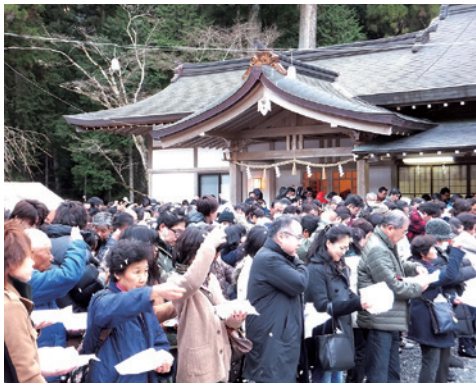
師走の大祓式

十二月三十一日午後三時より師走の大祓式を執り行います。大祓式とは心や体についた罪や穢れを身代りとなる人形に託し、川に流して祓い清める神事です。

人びとは、知らず知らずのうちに様々な罪穢れに触れています。「けがれ」とは、「気が枯れている状態」を表す様子が語源ともいわれています。

「祓い清める」ことで清らかで明るい状態に立ち返り、活力に溢れた生活を営むことができます。私たち日本人はこのような神事を生活の中に上手に取り込み、暮らしてに節目をつけながら心身共に豊かに暮らしてきました。

当日は、多くの方々にご参列いただき、清々しく新年を迎えていただきませうご案内申し上げます。



師走大祓式「祓物」で祓い清める人々(平成26年12月31日)

古代の森シリーズ 45

一宮

一宮制が成立したのは平安時代で律令制度が運用されていた時代です。律令制度では、国(朝廷)の役所である神祇官が全国の神社を管理していました。

地方長官である国司は任国に赴任すると、まず国内に鎮座する諸神社を参拝します。また、国司がお祭りに際し神々に捧げ物を奉獻することは一国の統治者として欠かせない公の行事でした。

日本は古代において、祭祀を司る者と政治を司る者は同意義であり、「祭」と「政」を正しく行うことで一国の安寧がもたらされました。

やがて国内に鎮座する有力神社の中から、最上位の神社を選び一宮とし、次の神社を二宮・三宮としました。



元神宮大宮司坊城俊良様謹書

新春祈禱のご案内

平成二十八年の新春祈禱のご予約を承ります。

当日の受付は混雑が予想されますので、年内の予約受付をご利用ください。

尚、個人のご祈禱は当日受付にて執り行っております。

- 一、予約対象 会社及び個人事業者
- 一、申込方法 電話またはFAX等にてお申込み下さい。
- 一、ご相談、ご不明の点がありましたら、下記までお問い合わせください。



五穀豊穡と疫神鎮送を祈願する御弓始祭(平成27年1月17日)



恒例のどんど焼き(平成28年は1月17日に斎行)



諸業繁盛の大國だるまの授与(元旦より)

小國神社 新春祈禱予約係
 TEL 〇五三八一八九一七三〇二
 FAX 〇五三八一八九一七三六七

厄除大祭のご案内

一月二十日～二月三日

厄年は人生の中でも、健康、仕事、私生活などあらゆる面で転機を迎えると共に厄災に合いやすい年回りとされています。

当社では一月二十日より二月三日までの期間に厄除大祭を執り行い、特別に奉製した「厄除祈禱神札」と「厄除肌守」を授与いたしております。厄除祈禱を受けられ、無事に年を重ねた事の喜びと、神々に生かされていく感謝の心を持ち、清々しく一年をお過ごし下さい。

尚、二月三日は大変混雑いたしましたので、期間中お早めにお越しください。よろしくお願いいたします。

厄除大祭期間特別授与「破魔弓矢」のご案内

当社の「破魔弓矢」はご祭神の大己貴命が、宝器を用いて様々な厄災を打ち払い、国を治めた慶事に基つき、厄難消除・開運厄除の願いを込め奉製しております。

厄除大祭期間中の授与になりますので、是非ともこの期間にお受け下さい。また、是非ともこの期間にお受け下さい。是非ともこの期間にお受け下さい。



開運厄除の破魔弓矢

○平成28年 厄年表○

	前厄	本厄	後厄
男	昭和32年 60才	昭和31年 61才	昭和30年 62才
	昭和51年 41才	昭和50年 42才	昭和49年 43才
	平成5年 24才	平成4年 25才	平成3年 26才

	前厄	本厄	後厄
女	昭和56年 36才	昭和55年 37才	昭和54年 38才
	昭和60年 32才	昭和59年 33才	昭和58年 34才
	平成11年 18才	平成10年 19才	平成9年 20才



小國神社玉衣会による静岡犯罪被害者支援センターへの寄付金の贈呈（10月28日）



有村治子国務大臣のご参拝（9月26日）

「小國の杜」点描



巫女祭祀舞研修会 講師 稲葉悦子先生（6月22日）



油彩画「大己貴命から愛を受ける因幡の白兔」を奉納されたマークエステル氏（右）（7月28日）



溝蕎麦

つでである石田散薬の原料にもなります。

また、咲き姿は10個ほどの小さな花がかたまつて可愛らしい金平糖のような形になります。著名な民間薬のひとつが多く、宮川の水路によく咲いてい

分 布 北海道・本州・四国・九州
ミゾソバは一年生の多年草で、特に稲作地帯などでコンクリート護岸化されてい

草 丈 30cm〜40cm
花 期 七月〜十月
ミゾソバ（溝蕎麦） タデ科

ご紹介する御神域に生きづく草花の写真の数々は崇敬者でおられる袋井市在住の山崎克巳氏の奉納写真をもとに掲載をいたします。

「斎庭の草花⑤」
「ミゾソバ」

斎庭の草花⑤

「ミゾソバ」

平成二十七年十二月二十日
「玉垂」（たまだれ） 第四十五号
題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七一〇二二六
住 所 静岡県周智郡森町一宮三五九六一
電話番号 〇五三八（八九）七三〇二
FAX 〇五三八（八九）七三六七
印刷 ㈲デザインオウイス エムエスシー

平成二十七年十二月二日（水）撮影
光の入り具合でもみじの紅葉は次々と表情をかえます。その一瞬の美しさには心を奪われるばかりです。

表紙写真について

○今年も石路が美しく咲きました。黄色の花が終るといよいよ師走という感じがいたします。早春の花々が咲き揃う姿を今から楽しみにしています。

編集後記

○「玉垂」四十五号をお届けいたします。

毎年、紅葉の季節には縄巻修巳様による尺八の奉納演奏が事待ち池辺で行われています。現代のポップス曲を尺八でアレンジし、ご自身が調整された音響機器を通して演奏されます。その柔らかな透き通る音色はご神域の空気と和して、ご参拝の皆さまに癒やしやしの時間を提供して頂いております。



縄巻修巳氏による尺八の奉納演奏（11月21日）